

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	ET		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するということは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

1. 「文章入門」書き言葉の決まり事を学ぶ。ノートの取り方を学ぶ
2. 間違いやすい「敬語」
3. 「敬語の種類」
4. 「日常生活と言葉づかい」
5. 「ビジネス社会における敬語(1)」
6. 「ビジネス社会における敬語(2)」
7. 「修辭法と慣用句」
「さまざまな熟語」
8. 「原稿用紙の用法」
「文章の構成」
9. 「400字・800字の小論文」
「レポート・論文の作成」
10. 「就職活動と書類」
11. 「手紙とはがき(1)」
12. 「手紙とはがき(2)」
13. 「ビジネス文書」
14. 「説用文と推敲の方法」
「敬語」の復習
15. まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回、授業の始めに、前回の授業内容を復習する小テストを行い、次週にフィードバックする。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

テストやレポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を修得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名文等の学修を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
2. 国語の力(読む・調べる・書く)
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方、自己紹介の仕方
6. 自己紹介
7. 文字の書き方と表記
8. 文章の書き方①
9. 文章の書き方②
10. 文章の書き方③
11. 文章の書き方④
12. 文章の書き方⑤
13. 書写①
14. 書写②
15. 日本語表現の振り返り、まとめのテスト

授業の方法

書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習し、学修内容を把握しておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①小テストは、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	e		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

「絵本の力」に関する卒業研究を進めるために、文献や資料を読んで、意見交換を行う。また、絵本の選び方、読み聞かせの仕方を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

作家や絵本研究者が名作として紹介している絵本を取り上げて、作品世界の分析を行う。また、絵本の歴史、絵本の種類、読み聞かせの仕方、挿絵の読み方、作家の経歴等について学び、研究テーマの方向性を定めていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、絵本の基本概念
2. 世界の絵本の歩み
3. 日本の絵本の歩み
4. 現代の絵本(1)
5. 現代の絵本(2)
6. 文の機能と絵の機能
7. 画面展開と描写の手法
8. 絵本の表現
9. 絵本の画材と技法
10. 子どもの発達と絵本
11. 赤ちゃんと絵本、幼児と絵本
12. 小・中学生と絵本
13. 障がい者と絵本
14. 絵本の読み聞かせ、絵本の選び方
15. まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①レポートは、担当教員による批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

生田美秋・石井光恵・藤本朝巳『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

自分から進んで研究に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	f		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	1				

授業の到達目標

教育・保育について、文献を読んで協議したり、実技研修や領域に関わる研修をしたりする中で、「幼児期の教育・保育」の重要性を認識するとともに、研究の方法と方向性を見出していく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児期にふさわしい園生活の展開等について学びながら、各自が関心のある事柄を模索していく。また、図書の読後感想発表などを通して、卒業研究への具体的な方向性を定めていく。

授業計画

1. オリエンテーション
演習の取組について
2. 幼児期の教育についての資料を読み、協議する
3. 「幼稚園の生活・四季を感じて」①グループで教材作成
4. 「幼稚園の生活・四季を感じて」②グループで教材作成
5. 「幼稚園の生活・四季を感じて」③グループで発表し協議
6. 「幼稚園の生活・四季を感じて」④グループで発表し協議
7. 図書館の利用と情報検索について
8. 幼児教育に関する文献を読んで協議①
9. 幼児教育に関する文献を読んで協議②
10. 幼児教育に関する文献を読んで協議③
11. 研究の意義と方法について
12. 研究の意義と方法について
13. 研究の意義と方法について
14. 研究の意義と方法について
15. まとめ・演習Ⅱに向けて

授業の方法

収集した資料や文献をもとに、書いてまとめる・協議する・発表するといった方法を取り入れ、特に文章表現力の向上をめざす授業とする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

- ①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する

参考図書

授業内で随時紹介する。

留意事項

主体的に授業に臨み、自分から進んで研究に取り組む気持ちを培うこと。学外ボランティアや幼稚園行事等に積極的に参加すること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究のテーマを設定するために、児童文学作品に関する文献や資料を分析し、意見交換を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

様々なジャンルの絵本や、作家に関する文献・資料を収集する。登場人物の描かれ方、作家の生き方、作品の魅力等についての発表や討議を行う。このような取組を通して各自の研究テーマを設定し、研究計画を立案していく。

授業計画

1. 今後の研究の進め方について、絵本の種類
2. 創作(物語)絵本
3. 昔話絵本・童話絵本
4. ファンタジー絵本
5. ナンセンス絵本・パロディ絵本
6. 文字なし絵本
7. ことばの絵本・詩の絵本
8. 認識絵本・生活絵本
9. 科学絵本・写真絵本
10. 教材としての絵本
11. 仕掛け絵本
12. 名作絵本から学ぶ①
13. 名作絵本から学ぶ②
14. 名作絵本から学ぶ③
15. 研究の方向性とテーマ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①レポートは、担当教員による評価とアドバイスをを行う。

②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

演習Ⅰのテキストを継続して使用する。

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために必要な文献・資料を収集し、読んでおくこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	f		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

討議を重ねて互いに学び合いながら、各自が研究したい内容について熟考する。そして、研究テーマの方向性を確かなものにしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児教育における環境構成や教材研究について学びながら、幼児教育の重要性を認識する。あわせて、各自の興味・関心に応じたテーマを見出せるように、段階を追って授業とする。

授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について共通理解する
2. 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する①
3. 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する②
4. 秋をテーマに保育を考えてみよう①
5. 秋をテーマに保育を考えてみよう②
6. 秋をテーマに保育を考えてみよう③
7. 秋をテーマに保育を考えてみよう④
8. 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する①
9. 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する②
10. 教育実習での学びを研究テーマに活かす①
11. 教育実習での学びを研究テーマに活かす②
12. 卒業研究に向けて見通しを立てる①
13. 卒業研究に向けて見通しを立てる②
14. 卒業研究に向けて見通しを立てる③
15. 演習Ⅱを振り返り、学びの確認をする

授業の方法

文献熟読後のレポート作成を中心しつつ、教材研究・教材作成・模擬保育なども取り入れて、主体的に取り組みをめざす授業をする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

①提出を求めるレポート等について、授業内で評価と助言を行う。
②平常点50% 定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点の減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために、主体的に文献等の取集などに努めること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究法や分析の方法についても復習する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.リサーチ1・発表・ディスカッション1
- 3.リサーチ2
- 4.リサーチ3
- 5.リサーチ4
- 6.各自の研究の問題と目的について設定・発表
- 7.各自の研究の研究法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
- 8.進行報告2
- 9.進行報告3
- 10.調査報告1
- 11.調査報告2
- 12.調査報告3
- 13.結果のまとめ方について1
- 14.結果のまとめ方について2
- 15.結果のまとめ方について3

授業の方法

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究法や分析の方法についても復習する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

毎週の課題の提出状況と演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題の提出は毎週とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

研究テーマに沿って提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

- 1.演習の進め方
- 2.卒業研究のテーマ
- 3.研究発表と討議①
- 4.研究発表と討議②
- 5.研究発表と討議③
- 6.研究発表と討議④
- 7.研究発表と討議⑤
- 8.研究発表と討議⑥
- 9.研究発表と討議⑦
- 10.研究発表と討議⑧
- 11.研究の進め方①
- 12.研究の進め方②
- 13.研究の進め方③
- 14.研究の進め方④
- 15.まとめと今後の取組

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①レポートは、担当教員による批評とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究テーマを念頭に置いて、文献・資料を自主的に収集すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って文章を作成・推敲し、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成していく。

授業計画

1. 今後の卒業研究の進め方
2. 卒業研究の発表と討議①
3. 卒業研究の発表と討議②
4. 卒業研究の発表と討議③
5. 卒業研究の発表と討議④
6. 卒業研究の発表と討議⑤
7. 卒業研究の発表と討議⑥
8. 卒業研究の発表と討議⑦
9. 卒業研究の発表と討議⑧
10. 卒業研究の発表と討議⑨
11. 卒業研究の推敲①
12. 卒業研究の推敲②
13. 卒業研究の内容報告と討議①
14. 卒業研究の内容報告と討議②
15. まとめ

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ① 各回提出のレポートは、担当教員による批評とアドバイスを行う。
- ② 評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

研究テーマに沿った文献を適宜紹介する。

留意事項

自主的に卒業研究に取り組むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

テーマを深く掘り下げて研究を進め、その成果を卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

研究テーマに沿って文献や資料の分析を行い、それをもとに報告と考察を繰り返しながら、研究を作成・完成していく。

授業計画

1. 研究の進捗状況の確認(1)
2. 研究の進捗状況の確認(1)
3. 研究の進捗状況の確認(1)
4. 研究の報告と討議(1)
5. 研究の報告と討議(2)
6. 研究の報告と討議(3)
7. 研究の報告と討議(4)
8. 研究の報告と討議(5)
9. 研究の報告と討議(6)
10. 研究の報告と討議(7)
11. 研究の修正とまとめ(1)
12. 研究の修正とまとめ(1)
13. 研究の修正とまとめ(1)
14. 最終報告とまとめ
15. 最終報告とまとめ

授業の方法

各自の報告と全体討議とともに、個別指導を取り入れて授業を進める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

- ① 提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。

② 平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とし、遅刻は2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説書」フレーベル館

留意事項

自ら責任をもって計画的に取り組むこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員・学校心理士			

授業の到達目標

激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

授業計画

1. 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
2. 教育方法をより深く理解するために日本と諸外国とを比較して学ぶ。
3. 授業と教育方法の基本原則の一つとして系統学習と問題解決学習を理解する。
4. 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
5. 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
6. 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
7. 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
8. 聞き手によくわかる話し方(話法)について基礎的な技術を身に付ける。
9. めあてを共有できるような板書の工夫を考える力を育てる。
10. 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。
11. 学習指導案での教材の持っている価値を見抜く技術を理解する。
12. 学習指導案での指導観の意義と書き方を理解する。
13. 学習指導案での展開部について、時間配分や軽重を考えながら書けるようにする。

14. 幼児の興味関心を高める情報機器、ソフトウェアを選定し活用することができる。
15. 子どもたちの実態や効果的な時期にあった情報機器を活用しその能力を高めかつ、情報モラルも理解する。
講義後、試験を実施

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

必要に応じて指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
2. 国語科教育の意義と役割
3. 国語科の目標と内容
4. 学習指導要領に基づいた学習指導計画
5. 国語科の指導法と評価
6. 話すこと・聞くことの指導
7. 書くことの指導
8. 説明的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
9. 文学的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
10. 音読・朗読の指導
11. 伝統的な言語文化の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
12. 国語の特質に関する指導
13. 模擬授業(低学年)
14. 模擬授業(高学年)
15. これからの国語科教育の課題、まとめのテスト

授業の方法

発表やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ小学校国語科教育法』コロ出版
文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(模擬授業の準備やレポート等を含む)を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校教員（担当指示主事）			

授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日の課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身に着ける。KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標、内容の理解を図る。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、差風会活動等での映像を通して子供の姿を伝えることで、理解を深めていく。

授業計画

1. オリエンテーション、改訂の趣旨と目標
2. 基本的な性格と意義
3. 学級活動の目標と内容
4. 学級活動の指導計画
「学級や学校における生活づくりへの参画」の模擬授業
5. 学級活動の指導計画
「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の模擬授業
6. 学級活動の内容の取扱い
「一人一人のキャリア形成と自己実現」の模擬授業
7. 児童会活動の目標と内容
8. 児童会活動の指導計画と内容の取扱い
9. クラブ活動の目標と内容、指導計画と内容の取扱い
10. 学校行事の目標と内容
11. 学校行事の指導計画と内容の取扱い
12. 指導計画の作成に当たっての配慮事項 特別活動における主体的・対話的で深い学び
13. 指導計画の作成に当たっての配慮事項 全体計画・年間計画の作成とその留意点
14. 内容の取扱いについての配慮事項
15. まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ① 模擬授業1回、レポート提出（全3回程度）を求め、講義の中でフィードバックを行う。グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- ② 評価方法 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 東洋館出版社（H29.6）

留意事項

出席と授業態度を重視する。意欲と主体性をもって、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石島 多恵/佐原 信江/大岸 啓子	選択	2	公立保育所保育士、公立幼稚園教員、公立小学校教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
3. 社会性や対人関係能力（職場、保護者・地域との人間関係の構築等）についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査①
8. 学校園現場の見学・調査②
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬保育・模擬授業と討議①
12. 模擬保育・模擬授業と討議②
13. 事例研究とロールプレイング①
14. 事例研究とロールプレイング②
15. 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

課題・評価方法

- ① レポートや作品等の提出物については、担当教員による批評とアドバイスを行う。
- ② 評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説書』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』、フレール館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木岡 正雄	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

体育科の指導案を作成することができ、模擬授業を行う力を養う。また、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校体育科の目標、指導計画、学習指導法、教材内容の扱い方等を把握する。理解した知識を基に学習指導計画を立て、模擬授業を実施する。また、授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

1. オリエンテーション。体育科の目指す授業について
2. 小学校学習指導要領、体育編の内容を知る。
3. これから目指す体育授業について。運動の特性について
4. 低学年の目標と学習内容について
5. 中学年の目標と学習内容について
6. 高学年の目標と学習内容について
7. 学習指導案の書き方について
8. 指導案を作成する。①
9. 指導案を作成する。②
10. 指導案を作成する。③
11. 模擬授業を実施する。①
12. 模擬授業を実施する。②
13. 模擬授業を実施する。③
14. 模擬授業を振り返る。学習評価について。
15. 学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

小グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。体育の実技も実施予定である。

準備学修

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）
文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編等
を読み、学習指導計画案等を事前に調べ、予習・復習等60時間を

費やすこと。

課題・評価方法

- ①学習指導計画案と模擬授業について、評価とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点30点、学習指導計画案40点、模擬授業30点とする。

欠席について

原則欠席をしない事。登校できる程度なら見学でも出席すること。

テキスト

文部科学省 「小学校学習指導要領（平成29年告示）」と「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」

参考図書

新しい体育授業の運動学 三木四郎 著 明和出版
平成23年版神戸市小学校体育指導のてびき

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多台4-7-20
自宅電話番号&Fax 078-961-4362

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「特別の教科 道徳」の目標と内容、指導計画、学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

道徳教育の目標と内容、授業方法、指導計画、資料の扱い方等、小学校における道徳の指導法を把握するための講義と演習を行う。また、学習指導案作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、道徳教育の基礎理論
2. 道徳教育の歴史
3. 道徳性とは何か
4. 道徳の目標と内容
5. 道徳性の発達理論と道徳教育
6. 道徳教育の計画
7. 道徳科の学習指導
8. 道徳教材の活用
9. 道徳科における問題解決的な学習
10. 道徳科における体験的な学習
11. 道徳科の授業展開
12. 道徳の評価
13. 模擬授業(低学年)
14. 模擬授業(高学年)
15. これからの道徳教育の課題、まとめのテスト

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②授業への参加度30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

柳沼良太『道徳の理論と指導法』図書文化社
文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備や提出物を含む）を重視する。道徳の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的としている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.特別支援教育の現状
- 3.視覚障害の理解と特別支援教育
- 4.聴覚障害の理解と特別支援教育
- 5.言語障害の理解と特別支援教育
- 6.知的障害の理解と特別支援教育
- 7.発達障害の理解と特別支援教育 1
- 8.発達障害の理解と特別支援教育 2
- 9.肢体不自由の理解と特別支援教育
- 10.それぞれの障害の理解と特別支援教育 1
- 11.それぞれの障害の理解と特別支援教育 2
- 12.特別支援教育の変遷
- 13.生涯発達支援について 1
- 14.生涯発達支援について 2
- 15.まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するのかを考える時間を設ける。

準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

課題・評価方法

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	1	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画

- 1.受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
- 2.実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 3.実習中の心得（勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物）
- 4.実習中の心得（学級経営、給食指導、休み時間）
- 5.児童や教職員との接し方
- 6.実習記録の書き方
- 7.学習指導と生徒指導
- 8.算数科模擬授業（低学年）
- 9.算数科模擬授業（高学年）
- 10.教育実習の成果と課題

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。